HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	送る言葉
著者	追塩，千尋；OISHIO，Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(54)：11-12
発行日	2013-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

送る言葉

追　塩　千　尋

日本文化学科寺田稔教授が2013年3月31日をもってご退職されますが，一言送る言葉を述べさせていただきます。

寺田先生は立正大学文学部助手などを経て1992年4月に北海学園大学教養部教授として着任されました。その後教養部の改組に伴い，人文学部（3年間），法学部（5年間）などを経て2007年に人文学部に異動し，このたび定年を迎えるに至りました。本学在職期間は，通算21年間になります。

私が本学に着任したのは1999年4月ですので，先生とご一緒したのは法学部に移るまでの2年間と2007年から今日までの6年間の計8年間，ということになります。着任した者にとって最初の教授会は緊張するものですが，同時にその時に声をかけてくださった先生方は忘れがたいものです。私の場合3人おりましたが，そのお一人が寺田先生でした。本学に開発研究所なるものがあること，その研究員として加わってはいかがか，など色々説明しかつ勧誘してくださいました（私は後に研究員を離れましたので，そのことは申し訳なく思っております）。先生は私の前任校の地理の教員とも面識があるとのことで，席を同じくする場ではそうした共通の話題にしばしば花を咲かせたものでした。

私の寺田先生に対する印象の一つは，長く勤めたこともありますが開発研究所研究員・運営委員としての先生でした。先生は，立正大学時代は関東地域の自然地理学的な研究を主とされていました。本学着任後はフィールドを北海道に定め，人文地理学的な研究を推進されました。研究の中核は，北海道における農業・農村の研究で，特に北海道の中山間農業地域における農業と農村社会の地域構造について統計資料やアンケートなどの緻密な分析を行い，その特性に迫ろうとしています。加えて，そうした研究

を通じて北海道農業の振興と発展，さらには北海道農業の新たな方向性を見据えようとしているところに特色と意義があるといえます。開発研究所の研究員・運営委員を長くお勤めになったのは，先生の専門を活かしかつ研究所の研究を推進する役目を果たし得る格好の人材であると衆目が一致していたためと思われます。

また，学部に新たに高校の地歴免許の課程認定を受ける際に，私は手続等の担当者でもありましたが，手薄な地理分野に関してその時には法学部所属でありましたにも関わらず助言と協力を頂いたことに改めて感謝を申し上げます。その時の事務員が，「寺田先生がおられなければ地歴免許は成り立たない」といっていたのが印象的でしたが，2007 年に再び人文学部に所属された時にはその点でも大きく安堵したものでした。

先生は旧教養部改組に当たって学部を点々とするなど，本学においては必ずしも落ち着いた環境に身をおいていたわけではなかったと思われます。学部に対しては多少遠慮されていると感じられる面もありましたが，共通教育，教職専門科目，学部の専門科目，研修旅行の引率など，いずれも労を惜しまず熱心に学生の指導に取り組まれました。そのことに関わるいくつかの逸話も耳にしています。

退職後は研究からはなれるそうで，人文系の教員にとって共通の懸案事項であります本の処分に関してもその手順などについて貴重なアドヴァイスを頂きました。今後ともご健勝で，折に触れ私たちにご助言，ご指導をくださるようお願いいたします。

意に満たない内容になってしまいましたが，送る言葉に代えさせていただきます。